

にゅう いん しゅっさん む じゅん び 入院・出産に向けた準備

出産施設では早いところで妊娠24週頃、おおよそ妊娠35週前後で入院に必要な準備の説明があります。体調の変化で早めに入院になる場合もあるので、いざという時のために入院準備を整えておくとう安心です。

入院にそなえて

出産施設で必要な用品を確認し、バックにつめていつでも持っていけるようにしておきます。出産施設への交通手段、入院中や産後の家事のことなども確認しておきましょう。

●交通手段について

マタニティタクシーがあるので必要な場合は登録しておくとう安心です。

●入院かもしれない時(陣痛かな?破水かな?何かおかしいな?)

・親子(母子)健康手帳(妊婦健康診査受診券も一緒に)

・マイナ保険証

・診察券

念のため入院になることも考えて入院セットも車にのせておきましょう。

●入院の時(陣痛が規則的で子宮口が開大してきている、破水している、入院管理が必要と判断された)

入院セットを持っていく。

出産施設に預けるものをひとまとめにして助産師、看護師に親子(母子)健康手帳と一緒に渡しましょう。

退院にそなえて

●退院するまでに準備しておくもの

退院時のママと赤ちゃんの洋服。(入院時に着ていた服でも可)

※足がむくんで靴が入らないこともあるので余裕のある履物があるとういいです。

助産師コラム

急な入院は誰にでもあることです。

その時は親子(母子)健康手帳と携帯電話などがあれば大丈夫ですよ。荷物は家族に持ってきてもらいましょう。

入院中にあるとういいな!

ストロー付きの
キャップ



パウチタイプの
エネルギー飲料



リップクリーム



テニスボール

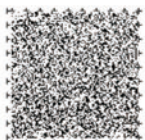


骨盤ベルト



分娩進行中、赤ちゃんが下りてくることによる肛門圧迫を和らげてくれます

出産後の骨盤の固定は早ければ早いほうがいいです



出産・育児用品の準備

赤ちゃんを産んで育てるにはいろいろなものが必要になります。今は便利な物もたくさんあり、どれを選べばいいか迷ってしまいますが、育児用品を選ぶのは楽しいことでもあります。妊娠中は体調の変化で安静が必要になることもあるので、家族などと一緒に下見をしておくとう安心です。

いつまでにそろえたらいい?

安定期(妊娠5か月)～妊娠28週頃を目安にそろえましょう。退院後1か月くらいまでに必要な物を準備しておき、足りないものはそのつど足していきます。

どれくらい必要?

赤ちゃんが生まれる季節やおゆずりなどをいただくことを考えて数を調整しましょう。一定期間しか使わないものはレンタルという方法もあります。双子出産の場合は、肌着や洋服などは1.5人分を目安にしましょう。

入院までに(出産する施設により必要な物が変わるので確認しておきましょう)

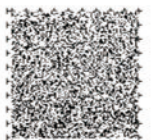
- | | | |
|--|---|---|
| <input type="checkbox"/> 親子(母子)健康手帳 | <input type="checkbox"/> マイナ保険証 | <input type="checkbox"/> 診察券 |
| <input type="checkbox"/> 産褥ショーツ <small>さんじょく</small> | <input type="checkbox"/> 産褥パット <small>さんじょく</small> | <input type="checkbox"/> パジャマ(前開き) |
| <input type="checkbox"/> タオル・バスタオル | <input type="checkbox"/> 洗面用具 | <input type="checkbox"/> スリッパ |
| <input type="checkbox"/> 生理用ナプキン | <input type="checkbox"/> ガーゼハンカチ | <input type="checkbox"/> 赤ちゃんの肌着・服(退院までに) |

出産までに

- | | | | |
|--|-------------------------------------|---|-----------------------------------|
| <input type="checkbox"/> ベビー服 | <input type="checkbox"/> 短肌着 | <input type="checkbox"/> 長肌着(コンビ肌着) | <input type="checkbox"/> オムツ(紙・布) |
| <input type="checkbox"/> おしりふき | <input type="checkbox"/> 体温計(大人用で可) | <input type="checkbox"/> ベビー布団 | <input type="checkbox"/> 防水シート |
| <input type="checkbox"/> 保湿用ローション・クリーム | <input type="checkbox"/> バスタオル | <input type="checkbox"/> ベビーソープ | <input type="checkbox"/> 哺乳瓶消毒品 |
| <input type="checkbox"/> 綿棒・乳児用つめきり | <input type="checkbox"/> 哺乳瓶・乳首 | <input type="checkbox"/> ベビーバス(衣装ケースでも代用可能。レンタルもあります) | |
| <input type="checkbox"/> チャイルドシート(車で退院する場合は退院時に必要です) | | | |

必要に応じて

- | | |
|--------------------------------------|--------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> ベビーベット(必要時) | <input type="checkbox"/> 母乳パット |
| <input type="checkbox"/> 湯温計 | <input type="checkbox"/> 沐浴布(ハンドタオル) |
| <input type="checkbox"/> おくるみ | <input type="checkbox"/> だっこひも |



入院のタイミング

ちようこう

出産の兆候

出産の始まりには一般的に次のような兆候が表れます。

じん つう 陣痛



規則的なお腹の張りに伴う痛みのこと。

初産婦: 10分間隔

経産婦: 10~15分間隔

もしくは、痛みの間隔が定期的になった時

は すい 破水

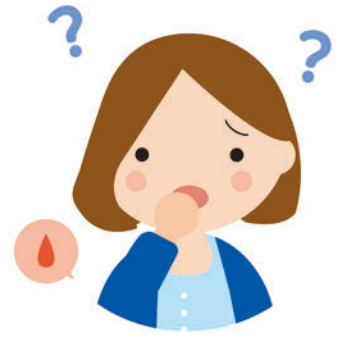


赤ちゃんを包んでいる膜が何らかの原因で破れること。

● チョロチョロ

● バシャっと出る

しゅっけつ 出血



子宮の入口が開き始めているサイン。

● おりものに混ざったドロツとしたもの

※破水がどうかかわからないことも多く尿漏れの可能性もあります。どちらかわからない時にはすぐに出産施設に相談しましょう。

※破水の時には必ず入院となります。細菌感染の可能性も高くなるので入浴・シャワーは禁忌です。夜用のナプキンをあてて、車での移動の際にはできるだけ体を横にして移動しましょう。

こんな時はすぐに出産施設に電話しましょう!!

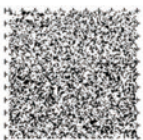
胎動がない

サラッとした
出血



痛みが続いて
休憩がない

助産師コラム

慌てる必要はありません。事前に出産施設に情報を伝えられるようにしておきたいものですが、聞かれたことに答えられれば大丈夫! 分娩進行状況も声で伝わるのでできるだけママが電話してくださいね。



さん お産の流れ

分娩第1期(陣痛が始まってから子宮口全開まで)			
<p>ママの過ごし方</p>	<p>お産の兆候があったら病院に連絡して指示を仰ぎます。入院になると、親子(母子)健康手帳・入院に必要な物品をスタッフに渡して、分娩衣に着替えます。</p> 	<p>陣痛がだんだん強くなります。陣痛の波がきたら自分の好きな体勢をとり息を吐くことに集中しましょう。自分がしてほしいことなどがあれば伝えましょう。</p> 	<p>赤ちゃんが下がっていきみたくなりますが、息を吐き、出来るだけいきみを回避してみましょう。自然にいきみが入ることもあります。息をとめがちになるので呼吸を忘れないようにしましょう。</p>
<p>パパや家族の過ごし方</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 付き添いが出来るのであればママの要望を確認し、寄り添いましょう。 ● 他の家族への連絡もとれるようにしておきましょう。 ● 一緒に呼吸法を行ったり汗を拭いたり痛いところのマッサージなどをやってみましょう。 	<p>人の手のぬくもりは痛みを和らげてくれます。</p> 	

助産師からのアドバイス

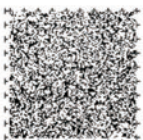
「陣痛」と聞くと「どれくらい痛いのかな…」「痛いの怖いな…」とってしまいます。そうですね…「痛い」と聞くと耐えられるかなって思いますよね。だけど、陣痛は赤ちゃんがお母さんに会いに来る痛みなんです。痛みも変化していく中で、強くなれば強くなるほど赤ちゃんは会いたがっています。息はたくさん吐けば吸えます。息を吐くことを忘れずにお腹にいる赤ちゃんに酸素をいっぱい届けてくださいね。



先輩ママの出産体験談 ～自然分娩～

予定日の1週間前、明け方におしるし、その日の夜に陣痛が来て病院へ。そこからなかなか進まず、促進剤を使いながら翌日夕方まで陣痛に耐え続け、分娩台に乗ってからはあっという間に生まれてきてくれました。陣痛は想像以上の痛みで、途中で投げ出したいと何度も思いましたが、生まれた瞬間全ての痛みと疲れが嘘のように消え、「終わった…!」と声が出ました。そして翌日から同室開始。生まれたての我が子を改めて見つめながら、本当に産んだんだ…この子がずっとお腹にいたんだな、やっと会えたね、ありがとう。そんな気持ちがこみあげてきて、涙が止まらなかった。きっとこの瞬間を一生忘れないだろうと思います。

あれから1年経ち、先日1歳のお誕生日を迎えた娘。お母さんにしてくれてありがとう。毎年お誕生日がくるたびに、生まれた日のことを思い返したいです。



分娩第2期(子宮口全開大から赤ちゃんが生まれるまで)

分娩第3期(赤ちゃんが生まれてから胎盤が出るまで)

痛みのタイミングで医師・助産師が声をかけるので、それに合わせていきみます。痛みがない時にはしっかり呼吸を整えましょう。



赤ちゃんの頭が見え隠れしてきて痛みもいきみもピークになります。呼吸することは忘れないようにしましょう。指示がでたら短い呼吸に切り替えます。これは赤ちゃんに酸素を送るための大事な呼吸法です。

誕生



おめでとう
ございます!

胎盤が出るまでは出産です。胎盤が出る時には出産後に軽い陣痛のような痛みがあることもあります。分娩後2時間は出血が増えやすいため、分娩室で様子を見ます。

- 赤ちゃんを迎える準備を一緒に行いましょう。
- 引き続きママに寄り添いましょう。

- ママにねぎらいの言葉をお願いします。

パパやご家族も一緒に頑張ってくれてありがとうございます。



赤ちゃんの誕生日は、ママが一番頑張った日。
毎年の誕生日は、生んでくれたお母さんに感謝したいものです。

出産という一大経験を色々な思いで感じる瞬間です。
自分のことをたくさんほめてください。



お産の流れ

先輩ママの出産体験談 ～帝王切開～

私の出産は予定帝王切開だったので、気持ち的にも余裕だと思っていましたが、いざ出産となると怖くて、手術中は助産師さんに手を握っていただくことで気持ちを落ち着かせ出産を乗り切ることができました。事情があり、私のように自然分娩を希望していてもそれができない方もいるかと思います。帝王切開でも、赤ちゃんは元気に成長してくれ、子どもはとても可愛いです。生まれたときのわが子の姿と産声はとても愛おしく、感動的で今後も忘れることのない最高のプレゼントです。



にゅう いんちゅう す かた 入院中の過ごし方



あくまでも目安です。詳しいスケジュールは出産施設に確認しましょう。

	分娩当日(産褥0日目)	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
身体のこと	子宮の戻り、悪露(出血)、後陣痛(腹痛)、創痛、乳房の状態を毎日確認します。 必要に応じて採血、創部の状態の診察があります。					
活動のこと	出産後2時間はベッド上安静、その後病室へ行き、最初に尿意を感じたらトイレに付き添ってもらいます。	ママの状態に応じて活動制限はなくなります。特に問題なければシャワー浴も大丈夫です。(毎日OK)	←→ ←→ 経産婦退院 初産婦退院			
指導	授乳、同室指導			沐浴、退院指導		
気を付けること	疲れや貧血によるふらつき、尿意を感じなかったり、出にくかったりすることがあるので注意しましょう。 尿意が回復するまでは3～4時間ごとにトイレに行きましょう。 悪露が排出されている間は細菌感染予防のため洗浄綿を使いましょう。					
赤ちゃん	生後数時間して母乳またはミルクの哺乳を始めます	生後12～24時間後、出血予防のためK2シロップの内服を行います。	黄疸、聴覚検査、先天性代謝異常の検査		K2シロップの内服を行います。(退院時)	
	生後1日目～退院時まで毎日沐浴があります。					

※帝王切開やママの体調、赤ちゃんの状態で検査や活動範囲、指導内容が異なります。

出産後によくあるQ&A

Q1 出産後のマイナートラブルはどんなものがありますか？

- A** 悪露(出血)、傷の痛みや子宮が戻ろうとする痛みやおっぱいの痛み、抜け毛、便秘、足のむくみ、痔、腰痛、尿漏れ、肌荒れなどがあります。出産後は妊娠中に増えていたホルモンが急激に減ってそれに伴いさまざまな不調を感じやすくなります。つらい症状があってもほとんどが一時的なものが多いので、症状が軽くなるのを待ちましょう。
症状が続く場合や強くなった時には産婦人科・主治医に相談しましょう。

Q2 マタニティブルーズって？

- A** 出産後ホルモンバランスが崩れて気分の落ち込みが強くなること。産後数日から2週間くらいのうちに起こりますがほとんど一時的なものです。待ちに待った赤ちゃんとの生活は大きな喜びや楽しさ、なんといっても愛おしい気持ちが高まります。その一方で2～3時間毎の授乳、おむつ交換、夜泣きの対応など慣れない育児でゆっくり寝る時間もない生活が始まります。また、ホルモンの影響で、イライラしたり、気持ちが沈んだり、疲れやすかったり、眠れないなど不調が続いて不安定になってしまいます。
「なんで?」「どうして?」「どうしたらいいの?」「わたしだけ?」「こんなはずじゃ…」
こんな時は一人で抱えこまず、出産施設のスタッフ、家族、友人など身近な人に気持ちを話してみてください。我慢せず、人に頼ったり気持ちを打ち明けることをやってみましょう。きっと、話を聞いてくれますよ。

